



イセエビ

主な漁業と漁期

刺網: 9月15日～

翌年5月15日

生態

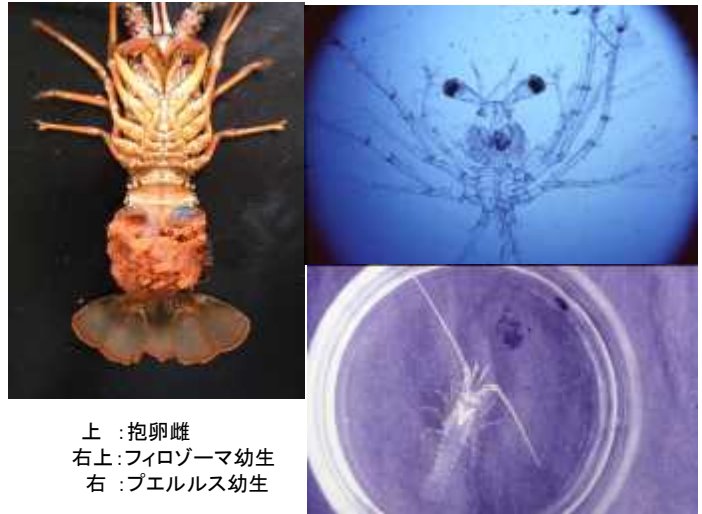
イセエビは日本の黒潮の洗う沿岸の岩礁域に生息するエビ類で、我が国に生息する最大級の大きさのエビです。

●生活史

産卵期は夏季で、雌の腹肢に抱えられた卵から孵化した幼生はフィロゾマと呼ばれます。その形は葉のように薄く、透明で、親とは似ても似つきません。フィロゾマ幼生は、日本の沿岸から黒潮を横切って、黒潮の外側に移動し、そこで脱皮を繰り返しながら成長します。1年ほどで体長30mmに達すると、プエルルス幼生に脱皮し、再び黒潮を横切って日本の沿岸に戻ってきます。プエルルスはエビ型ですが、“ガラスエビ”と呼ばれるように透明です。プエルルス幼生は摂餌しないとされ、岩礁域に着底すると脱皮し、親とほぼ同じ形の稚エビとなります。

●成長

岩礁に着底した稚エビは、1年後(2歳)に頭胸甲長40mm程度となり、その後、3歳で55mm、これ以降雌雄差が出

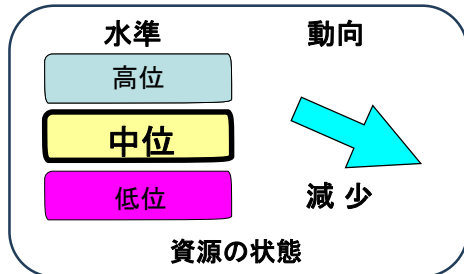


上: 抱卵雌
右上: フィロゾマ幼生
右: プエルルス幼生

て4歳で雄65mm、雌60mm、5歳で雄75mm、雌65mm前後に成長します。3歳で産卵を開始します。寿命ははっきりしていませんが、標識放流の最長採捕は9年後ですので、11歳以上です。静岡県内で確認された最大個体は頭胸甲長128mm、体長36cm、体重1.56kgでした。

漁業・資源動向

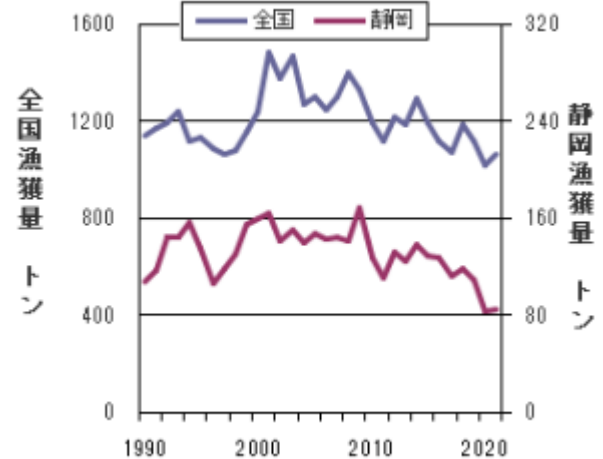
【資源】



- 1 日本全体の漁獲量は、2001年以降緩やかに減少し、近年は1,100トン前後です。2020年の漁獲量の多い県は上位から千葉県(221t)、三重県(176t)、和歌山県(133t)、徳島県(105t)、静岡県(85t)の順です。
- 2 本県漁獲量の最大値(169トン:2009年)と最小値(34トン:1956年)の間を3等分して資源水準の境界値にしたところ、2021年の資源水準は中位と、過去5年間の漁獲動向から資源動向は減少と判断しました。

【漁業と管理】

- 1 漁獲は刺網で行われます。午後に網を投入し、翌朝網を揚げ、漁港でイセエビを網から外します。県内の漁場は伊豆海域、榛南海域が中心です。産卵期である夏季は産卵保護のため禁漁になっています。制限体長以下の小型個体は放流されます。
- 2 静岡県漁業調整規則によって漁期(産卵期禁漁)、漁獲体長が制限され、さらに漁業協同組合の漁業権行使規則で漁法制限、そして漁業者による自主的な管理



全国と静岡県のイセエビ漁獲量の推移

- として集落ごとのエビ網組合によって漁期中の操業禁止期間、漁具数や規模、漁場の利用方法が定められており、重層的な管理が行われています。
- 3 古くから増やすための各種の試みが行われています。棲み場を増やすための投石などの漁場造成、禁漁区の設定、漁獲努力を増やさないための輪採方式の導入や一部プール制の導入などです。

《国の資源評価調査状況報告書へのリンクはこちら》
https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_126.pdf

担当者の一言: 太く長い立派な触角と硬い甲羅から武士を想像させ、「威勢がいい」エビとして“イセエビ”と呼ばれるようになったという説があります。縁起物として、お祝いの席でも使われます。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 0558-22-0835